

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は103～104円台での推移が継続か

[12月14日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月7日～12月11日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	104.17	104.58(10)	103.92(7)	104.04	-0.13
ユーロ・ドル	1.2122	1.2166(7)	1.2059(9)	1.2159	+0.0038
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,652.52	-98.72	日本10年債利回り	0.013	-0.011
ダウ平均株価	29,999.26	-219.00	米10年債利回り	0.906	-0.060
=====					

<来週の主要経済統計等>

14日 日銀短観(12月調査)

日本10月鉱工業生産指数確報値

ユーロ圏10月鉱工業生産指数

15日 中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高

英11月雇用統計

スイス11月生産者・輸入価格

カナダ10月製造業出荷

米12月NY連銀製造業景気指数、米11月輸入価格指数

米11月鉱工業生産・設備稼働率

米10月対米証券投資

16日 NZ第3四半期経常収支

日本11月貿易収支

英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数

独12月製造業PMI速報値、独12月非製造業PMI速報値

ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月非製造業PMI速報値

英12月製造業PMI速報値、英12月非製造業PMI速報値

ユーロ圏10月貿易収支

カナダ10月卸売上高、カナダ11月消費者物価指数

米11月小売売上高

米12月製造業PMI速報値、米12月非製造業PMI速報値

米連邦公開市場委員会(FOMC:15～16日)政策金利発表

パウエルFRB議長記者会見

17日 NZ第3四半期国内総生産(GDP)

豪11月雇用統計

スイス銀行(SNB)政策金利

ユーロ圏11月消費者物価指数

英中銀(BOE)政策金利

米11月住宅着工・許可件数

米新規失業保険申請件数、米12月フィラデルフィア連銀景況指数

18日 NZ11月貿易収支

日本11月消費者物価指数

日銀金融政策決定会合(17～18日)金融政策発表

黒田日銀総裁記者会見

英11月小売売上高

独11月生産者物価指数

ユーロ圏10月経常収支

独12月ifo景況感指数  
米第3四半期経常収支  
カナダ10月小売売上高  
米11月景気先行指数

【前回のレビュー】ドル円は104円を割り込み、103.67近辺まで一時下落した。その後は103円台後半でのみみ合いを見せており、上値が重いものの、方向感が出にくく、103～104円台を中心に一進一退の動きが継続するとした。

#### 【英国でワクチンの接種開始】

英国で8日に米ファイザーのワクチンの接種が始まったことを受けて、経済活動が正常化へ向けて動き出すとの期待感も高まり、8日にNYダウ、S&P500、ナスダックの主要3指数はそろって過去最高値を更新した。

もっとも、米国では新型コロナウイルスへの追加経済対策に関する協議はまだ決着していない。これを受けて9日の米国株は反落している。10日はみみ合いで小動きとなるなど、高値圏で小康状態となっている。

新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待感などを背景に米国株は上昇を続けてきて、リスク選好のドル売りの動きが続いてきた。ドルインデックスは4日に90.476まで一時下落したが、その後は下げが一服している。ユーロドルは4日に1.2178近辺まで上昇したものの、その後は高値圏でのみみ合いとなっている。

米国では新型コロナウイルスの感染再拡大が続いている。ワクチン実用化への期待感も広がっているものの、感染拡大にも歯止めがかかっていない。このため、一部の州や都市では外出制限措置が実施されるなど、景気への悪影響が警戒されている。米経済指標の悪化が顕在化すると、株価にも重石となり、通貨市場ではリスク回避のドル買いにつながりそうだ。

15～16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、追加緩和に動くと思われる向きもある。国債や住宅ローン担保証券（MBS）の購入ペースの拡大なども議論の対象となる可能性がある。もっとも、現在の米国経済に必要なのは追加の経済対策であり、政権交代前でもあることで金融緩和の一段の拡大は見送りとなりそうだ。国債購入に関して、期間や年限などを含むガイダンスの変更にとどまるとの見方が強い。17～18日の日銀金融政策決定会合では金融政策に変更はないとみられる。

米国株は高値圏でもみ合い、米10年物国債利回りは0.90～0.96%台での推移となっている。こうした中、ドル円は104円台を中心とする動きが継続している。リスク選好ではドル売りと円売り、リスク回避ではドル買いと円買いに傾き、ドルと円が同じ方向に動く流れは続いている。このため、ドル円は一方的な動きになりにくくなっている。ドル円の方向感の出にくい動きは続くと思われる。103円台からの大きな崩れは起こりにくいとみられ、103～104円台での推移が継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、103.00～105.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、14日に日銀短観（12月調査）、日本10月鉱工業生産指数確報値、15日に米12月NY連銀製造業景気指数、米11月輸入価格指数、米11月鉱工業生産・設備稼働率、米10月対米証券投資、16日に日本11月貿易収支、米11月小売売上高、米12月製造業PMI速報値、米12月非製造業PMI速報値、米連邦公開市場委員会（FOMC：15～16日）政策金利発表、パウエルFRB議長記者会見、17日に米11月住宅着工・許可件数、米新規失業保険申請件数、米12月フィラデルフィア連銀景況指数、18日に日本11月消費者物価指数、日銀金融政策決定会合（17～18日）金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米第3四半期経常収支、米11月景気先行指数などがある。

#### 【ユーロドルは底堅い動きか】

10日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会では、政策金利は据え置きとなった。パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）は5000億ユーロ拡大して、1兆8500億ユーロに拡大された。資産の購入期限も2021年6月末から2022年3

月末まで延長される。長期資金供給オペ（TLTRO）については、期限を2022年6月まで1年延長することを決めた。ラガルド総裁は記者会見で、「新型コロナウイルスの感染再拡大やそれに対する抑制策が経済活動の制限につながっている」などと述べた。

ユーロドルは1.21台後半まで上昇した後は上げ一服となっていたが、ECB理事会やラガルド総裁の記者会見の後は上下に振幅した後に堅調な動きを見せており、1.21台半ばで上昇している。ECBの追加緩和の規模はおおむね市場の想定範囲にとどまるとみられる。ユーロドルは底堅い地合いを継続しており、緩やかに上値を追求展開になるとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.2000～1.2300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日にユーロ圏10月鉱工業生産指数、15日に中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高、英11月雇用統計、スイス11月生産者・輸入価格、カナダ10月製造業出荷、16日にNZ第3四半期経常収支、日本11月貿易収支、英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数、独12月製造業PMI速報値、独12月非製造業PMI速報値、ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月非製造業PMI速報値、英12月製造業PMI速報値、英12月非製造業PMI速報値、ユーロ圏10月貿易収支、カナダ10月卸売上高、カナダ11月消費者物価指数、17日にNZ第3四半期国内総生産（GDP）、豪11月雇用統計、スイス銀行（SNB）政策金利、ユーロ圏11月消費者物価指数、英中銀（BOE）政策金利、18日にNZ11月貿易収支、英11月小売売上高、独11月生産者物価指数、ユーロ圏10月経常収支、独12月IFO景況感指数、カナダ10月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。